

Frente

三重県男女共同参画センター

フレンテみえ

フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.62
2015.8

特集

男性の 育児参画

第1回 ファザー・オブ・ザ・イヤード
みえ大賞
男澤 忠宣さん

第1回 ファザー・オブ・ザ・イヤード
みえ大賞
私の街の育児男子応援団 部門賞

ミエメン 川端 賢一さん

みえの育児男子プロジェクト

三重県 少子化対策課の取組

「もつとパパを楽しもう！」

Report

- フレンテまつり×“&mama”
-supported by JAPAN FAMILY FESTIVAL-
- 三重県内男女共同参画連携映画祭2015
- 女性のための自己主張トレーニング
自己尊重トレーニング
- 社会に声を届けよう! 女性のための政治入門塾
- 子どもができたあなたへ。
育休中に描くママのこれからの働き方
～働くママでよかったと思えるために～

予告

- 女子大学生のための
「働く女性に役立つコミュニケーション術」
～自分も相手も大切に。
対等なコミュニケーション力を身につけよう!～
- 女性のからだの不調
～自分で整えるためのセルフケアレッスン～



特集 男性の育児参画 もっとパパを楽しもう!

男性の育児参画が、非常に注目されています。なぜ今、男性の育児参画なのか?

国では重要課題として「女性の活躍促進」「少子化対策」に取り組んでいます。これらを推進するには、女性に偏りがちだった育児に男性が参画することが必須とされています。

世のお父さんからしてみれば、仕事以外に負担が増えるのか…という思いがあるかもしれません。しかし、メリットもあります。

たとえば仕事一辺倒の人、仕事以外にもいろいろしている人のアイデア、どちらがおもしろいでしょうか。また時間を気にせず仕事ができる人と、時間が限られている人、どちらがより効率的な仕事をするのでしょうか。ちなみに日本は世界と比べると生産性が低く長時間労働というデータがあります。

つまり、家事や育児をすることは、決して仕事にとってマイナスで

はなくむしろプラス。子どもの成長を見ながら、自身も妻もキャリアアップすることができるのです。

今回は、昨年の第1回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」大賞の男澤忠宣さんと、「私の街の育児男子応援団」部門賞のパパ団体「ミエメン」さんにお話を伺いました。また三重県健康福祉部 子ども家庭局少子化対策課の取組「みえの育児男子プロジェクト」についてもご紹介します。

男女共同参画、経済成長戦略、少子化対策など、あらゆる視点から男性の育児参画が求められています。一方で育児は父親の権利でもあります。子育てでしか得られない喜びや幸せがきっとあるはず。ママだけに任せておくのはもったいない。もっとパパを楽しもう!

インタビュー

おとこざわ ただのぶ

さおり

男澤 忠宣さん・沙織さん夫妻

昨年の第1回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」の大賞を受賞された男澤忠宣さん。この賞に推薦者として応募したのは妻の沙織さんでした。受賞時は1年間の育児休暇中だった忠宣さん。父母それぞれの立場から育児について伺いました。

Q 一妻の沙織さんが出産後も働き続け、交代で育児休暇を取るということは、結婚当初から2人で決めていたのでしょうか?

忠宣さん: 育児を取ることは自分から言い出しました。女性はライフスタイルが変わっていきますよね。結婚して仕事を辞める人、辞めない人、育児を取る人。自分は男として生まれてきて、大学を卒業して就職して、そのまま働く道一本しかない。選べないのはなんだからなあという思いは常にありました。もともと子どもが大好きというわけではないけど、実際この子が生まれたら、かわいい、見たいという気持ちが強くなって、でも子どもが起きている時間に帰れない、土日も仕事があって、なかなか関わるのができない。それで思い切って育児を取ることにしました。

沙織さん: もともと私は働き続けるということを踏まえて就職先を選びました。夫の職場も育児を取りやすい環境だったのは幸運でした。

— お互いに育児の仕方が違うと感じるところはありますか?

沙織さん: はじめての子どもということもあって、「こしなきゃ」「あしなきゃ」というのが自分の中であって、「毎日掃除もしてキレイにしなきゃ」「この子の着ているものはちゃんと洗ってあげなきゃ」って苦しい部分もあったんですよ。だけど彼が育児に入って、育児をするようになったら、すごく自由にやあって。「1日くらい掃除しなくてもいいしあ」とか、洗濯も「あー、何日に1回でもいいんじゃない?」とか。それでこの子も全然気にしていないし、元気にやっているし、「まあ、これくらいのペースで大丈夫なんだなあ」と思いました。



忠宣さん: それは語弊があるから、マジで。したよ、俺(笑)。

沙織さん: それなりにはやってくれていたんですけど(笑)。すごくいい勉強になりました。そこまで頑張らなくてもやっていけるんだと。彼は家電も好きで、いろんなものを買ってくるんですね。食洗機とかルンバとか衣類乾燥機とか。それまで食器は手洗いするものだし、大量のこの子の服は毎日洗濯して干さなきゃって、それに悩まされていました。

忠宣さん: もちろん人にもよると思うけど、子育てについて男のほうが良くも悪くも雑ですね。お母さんのほうが良くも悪くも心配性。「そんな走ったら転ぶよ」とか。父の方が奔放という気はするんだけどな。そこであまり男女差って言ってしまつと、偏見が生まれちゃうからね。いかにね(笑)。

— 育児中は忠宣さんが料理をされていたんですか?

沙織さん: 完全に。朝昼晩と。私のお弁当も作ってくれました。お互いあまり育児で「こうして」とは頼まないんですけど、「絶対3食この子にご飯を食べさせてあげてね。部屋はちょっとくらい汚くてもいいけど、ご飯だけはお願いします」ってそこだけは頼んだんです。

— 油断すると2食になる可能性が?

忠宣さん: 自分だけだとすぐそうなりますからね(笑)。

沙織さん: 「たまにお惣菜でもいいから、食べさせて」って。それはきちんと守ってくれました。

— 沙織さんは管理栄養士ですよ。それだと食事に対して夫にダメ出ししたくなりませんか?

沙織さん:私も口出しされるとイヤなので、しなかったです。夫が好きなものを作るので、野菜が少なく肉中心だったんですけど。「そんな肉食べられへんやろ?」っていうような硬い肉をドーンと出していたりして。私は仕事柄そういった知識があるので、ソツなく段階を踏んでやっていたつもりなんですけど、夫は急にステップアップしてくるので、「え?大人と一緒に?」とびっくりしてしまいました。

忠宣さん:でも大人が思うより「結構食べれるじゃん」って思ったでしょ?お母さん方と話していると、食の情報量がすごくて。あのお菓子はあげちゃダメとか。飴玉とかチョコレートが悪魔の食べ物のように言われていることを、初めて知りました。

沙織さん:離乳食の教室では、ちょっと油を使うだけで「おなか壊しちゃうんじゃないか」と心配されるお母さんもいらっしゃるし、私も気をつけていました。だけど家に帰ったら「あれ?から揚げ?1歳半の子に?」って。ちょうど育休を夫にバトンタッチして、仕事も重かったんで、気にしていられなかったんですけど。そのおかげでガミガミ言うことな

く、「ああ、ご飯ができてる。ありがとう」という感じでした。今思えば全部うまくかみ合ってたのかな。

— 最後に、これからお子さんが大きくなっていく中で、楽しみなことは?

沙織さん:私が楽しみというか、こうなったらいいなあと思うのは、共働きの親を見て、寂しいという感情よりも、生き生きと働いているんだなあって思ってくると嬉しいです。

忠宣さん:僕は、「親がないから寂しい」って親があまり言っちゃわなくてもいいかなと思うんですね。そりゃ寂しいかもしれない。でも極端なことを言ったら親と一緒にいるほうが苦痛ということもあるんじゃないかな。いろんな家庭の形があって、この形がベストだっていう形はないと思う。「この形じゃないとかわいそうなのよ」って周りが決めつけて言わないほうが、きっといい。学童預けているから、親の愛情が足りないというわけではないし。もっと親は堂々として、限られた時間の中で一生懸命関わっていて、それが伝わればいいのかなって思います。

掲載しきれなかった男澤さん夫妻のインタビューをホームページにて公開中です。お互いの実家が遠くて、そのサポートを受けられないおふたりにとって、働きながら子育てをするには、まだまだ壁があります。女性活躍、男性の育児参画と言いつつ、社会の制度の前提となるモデル世帯は昔のままで、時代に追いついていない現状についてもお話しいただいています。ぜひご覧ください。

インタビュー

かわ ばた けん いち ミエメン 川端 賢一さん

昨年の第1回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」私の街の育児男子応援団!」部門賞のミエメンは、川端賢一さんと高山功平さんが立ち上げた「ななめの関係」をテーマに活動するパパ団体です。「ななめの関係」とは何か?活動を始めたきっかけやその内容など、川端さんにお話を伺いました。



(左:川端さん、右:高山さん)



Q — 活動しようと思ったきっかけは?

育児にもっと関わりたいと思って、次男・三男が生まれたときに、それぞれ1ヶ月育休をとりましたが、普段は仕事が忙しかったので、妻が育休中で家にいるということに甘えて、夜は残業、休日も仕事をしながら、モヤモヤしていました。

そんなときに仕事の関係で知り合った高山さんに、同じ年頃の子どもがいたので、自然と子育てについて話をしていました。高山さんは会社では地域活性化推進室という部署にいたんですが、奥さんから「地域を活性化する人は、家庭も活性化できてないよね」と言われていたそうなんです。

そこでふたりで「時間がなくても、忙しくても、できること、やり方ってありますよね」という話になって、せっかくなので話だけではなく、やってみようかということになりました。

— 活動内容は?

まず最初に、身の丈の活動にすることを話し合いました。それと、活動のために家族との時間を犠牲にしないという約束事も決めました。例えば、何か家族向けのミエメンのイベントをするために、仕事が終わってから準備に行ったり、打ち合わせに行ったりが続いて、家庭をおろそかにするのは本末転倒。それでミエメンでは、活動をするときには、妻の意見を聴くことにしました。妻が「それおもしろそうだね、やってみたら」と言ってくれたら実施するようにしています。

それで「じゃあ何をしましょうか?」となったときに、高山さんから「なな

めの関係”をやりたい」と言われました。もともと高山さんは神奈川県出身で、仕事の関係で三重県に来たんですね。高山さんは仕事を通じていろいろな人と出会いますが、奥さんはなかなかつながりがない。子どもたちも母親という時間が多い。子どもたちにはいろいろな大人と関わって、いろいろな経験を地域ですて欲しいという思いがありました。「自分と川端さんでは持っているものが違うので、川端さんから子どもたちに自分とは違うことを教えて欲しい。自分たちの小さいころは、近所には親以外に気にかけてくれる大人がいた。通学していたら声をかけてくれたり、悪いことをしたら叱ってくれたりがあった。そういう関係が今の子どもには希薄。ななめの関係が豊かになると、子どもがどう成長するか、親がどう育児に関わるようになるか、ミエメンを通じてやってみよう」それがスタートでした。

その趣旨に賛同してくれる知り合い何人かに声をかけて、うちに遊びに来てもらい、それぞれの父親ができることで自分の子ども以外と関わることになりました。子どもたちには川端さんではなく、特技で呼んでもらう。○○のおっちゃん。サッカーのおっちゃん、レゴのおっちゃん、体操のおっちゃん、勉強のおっちゃん。「あのおっちゃんに聞いたら、これを教えてくれる」とわかるように。

最初集まったのは4家族。全然知らない子どもたちを叱るのは難しいので、参加する父親同士の関係がしっかりできている、それが基本です。ミエメンはメンバーが100人とか規模を大きくするようなグループではないと思っています。コンセプトは顔が見える関係でのミエメン。

100人のミエメンを作るのではなく、10人のミエメンのようなグループを10個つくりたい。ミエメンの活動に参加したり、話を聞いたりして「おもしろそうだな」と思った人が、また自分の輪の中で作ってもらって、そういう広げ方をしたいと思っています。

— 顔が見える関係でのミエメンさんが、この6月と8月にキリン福祉財団からの助成を受けて、ワークショップを開催されましたよね。外向けの発信をされるようになった経緯を教えてください。

活動している中で、「父親ってこんな関わり方ができるんじゃないか」と自分たちなりに気づいたことがあります。それを自分たちでとめておくのではなく、今社会で男性の育児参画が言われていますし、「こういうのもありますよ」と外に発信することも大事なんじゃないかとも思うようになってきたんです。それで自分らの輪の中での活動をメインにしつつ、

外向けの活動もしようということになりました。それがPSR。高山さんが会社でCSR (corporate social responsibility: 企業の社会的責任) の担当なので、それをもじって、「P」がパパで「P」が「パパの社会的責任」という意味です。パパが自分の子どもだけではなく、地域の子育てをよくするためにできることをやっていこうというコンセプトです。

— それでは最後に今後の活動を教えてください。

これからも顔が見える関係の中での活動を続けていきたいと思えます。それがメインです。外向けとしては、本年度はキリン福祉財団助成のイベントを、10月と12月に開催する予定です。そして総仕上げ的なミエメンまつりを2月くらいにしたいねと話しています。こういった子どもとの関わり方もあるんだと、参考してもらえたら嬉しいです。

ミエメンの情報は、facebookで！ <https://ja-jp.facebook.com/miemen.diagonal>

掲載しきれなかった川端さんのインタビューをホームページにて公開中です。ミエメンの活動以外に、川端さんのパパスイッチが入った話、育休を取得されたときの話、夫婦の関係など、たくさんお話しいただきました。ぜひご覧ください。

Start!



少子化対策は昨年度に引き続き今年度も県政の重点テーマにあげられ、その取組のひとつに「みえの育児男子プロジェクト」があります。

少子化対策の視点から見た男性の育児参画について、担当課の酒井哲也さんにお話を伺いました。

— みえの育児男子プロジェクトをはじめた背景は？

県民の皆さんの多くが父親の育児参画に肯定的で、特に若い世代ほど「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」と考える割合が高い一方で、まだまだ女性に育児の負担がかかっているのが現状です。また、男性の家事・育児時間が長くなるほど第2子以降の出生割合が高くなる傾向があるという厚生労働省の調査結果もあり、三重県では少子化対策の取組の柱のひとつとして、男性の育児参画を推進しています。

— 男性の育児参画を推進していくうえで、課題となっていることは何ですか？

大きな課題のひとつが、職場における長時間労働など、仕事と育児を両立できる職場環境がまだ十分に整っているとは言えないということです。さまざまな取組を進める中でたくさんの男性が

ら聞かれるのが「もっと職場の理解がほしい」という声。そこを解消するためには、職場の中で、子育て等を行う部下の仕事と家庭の両立を支援し、サポートし合う職場環境づくりに取り組む上司(=「イクボス」)の存在が重要です。今年3月には鈴木知事自ら、知事としては2例目となるイクボス宣言をし、今年度は企業の管理職の方々と、部下の仕事と育児の両立支援をテーマに「イクボス」推進トークを行うなど、企業のトップや管理職の方から両立できる職場環境づくりを推進してもらえよう、取組を強化しています。

— 課題の解消に向けた取組も含めて、「みえの育児男子プロジェクト」の今後の展望は？

「子育てには男性の育児参画が大切」という考え方が、職場や地域社会の中でさらに広まるよう、次のような普及啓発等を進めていきます。(以下は27年度の取組の一部)

「みえの育児男子プロジェクト」27年度の取組(一部)

■第2回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」

家庭や地域でステキな子育てをしている男性(=育児男子)や、部下の仕事と育児の両立をしっかりと応援してくれる職場の上司(=イクボス)、育児と仕事の両立に関するエピソードや実践事例などを自薦・他薦により募集・表彰し、その内容を広く県民の皆さんに紹介します!

※応募締切 8月31日(月)必着 間もなく!

■みえの育児男子倶楽部

男性同士が会社等の垣根を越えて、それぞれの子育てに関する楽しみや悩み、経験談等について気軽に相談し、情報交換を楽しむための集まりを定期的開催します! 毎回、男性の子育て応援をテーマにしたゲストトークも予定しており、子育てに関する知識や、子どもや家族との関わり方のヒントなども持ち帰っていただけます。

※第1回は6月24日(水)に実施。以後、2か月に1回程度で開催予定。

■三重県知事との「イクボス」推進トーク

部下の仕事と育児の両立支援に積極的に取り組む「イクボス」の推進をテーマに、企業等の管理職の方々と知事が意見交換を行います! 「イクボス」推進の重要性を情報発信し、実施企業等における従業員の仕事と育児の両立支援の取組・職場環境づくりなどの推進につなげます!

みえの育児男子プロジェクト ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/D1KODOMO/shoshika/ikudan.htm>

お問合せ

三重県健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課

〒514-8570 津市広明町13 TEL:059-224-2304 FAX:059-224-2270 Mail:shoshika@pref.mie.jp

予告

フレンテみえ主催「男女共同参画フォーラム～みえの男女^{ひと}2015～」(11月15日(日)開催)では、三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社代表取締役社長でNPO法人ファザーリング・ジャパンの川島高之さんを講師に迎え、イクボス流の働き方改革についてお話しいただきます。乞うご期待!!



Event Report



6月7日(日)

フレンテまつり×“&mama” -supported by JAPAN FAMILY FESTIVAL-

フレンテみえでは、国が提唱する「男女共同参画週間」を含む6月を「男女共同参画強調月間ff(フォルティッシモ)」と定め、この時期に合わせて毎年フレンテまつりを開催、今年で12回目となりました。

今回は「いろんな世代、いろんな生き方」をテーマに開催。いろいろな世代が多様な生き方、考え方に触れる中で違いを認め合い、男女共同参画について楽しみながら考えるきっかけになってもらえればと、昨年に続き「&mama」とのコラボで実施しました。男女共同参画に関するパネル展やワークショップ、団体活動発表や子ども向け体験ブース、三重のママが企画したブース、津市長とのトークセッションやママパパの声を集めるポストツリーなど、様々なブースが展開されました。若い子育て世代の方、ファミリーでの参加も多く、来場者は1日で約3,100名！

来場された方からは「毎年楽しみに来ている」「子育てや生活の知恵など、もっと先輩世代から聞きたい」「家族で出かけられ、色々な人と触れ合える場があってうれしい」、参加団体からは「普段触れ合う機会の少ない方とも交流、活動発信できた」「活気があってよかった」などの声が聞かれました。

※フレンテみえでは、男女共同参画に対する意識を持って活動されている団体の支援を目的とした団体登録制度を実施しています。詳しくはお問い合わせください。



6月7日(日)～
7月18日(土)

三重県内男女共同参画連携映画祭2015

毎年、好評をいただいている「三重県内男女共同参画連携映画祭」も9年目！

2007年に3会場から始まった映画祭は、年々連携の輪が広がり、今年は県内21会場で開催し、盛況のうちに終了しました。

この映画祭では、作品を通して男女共同参画をさらに深く理解していただくためのプレトークやアフタートーク、団体主催のコーラスや寸劇、上映前に市町の男女共同参画の取組紹介をするなど、毎年各市町が工夫を凝らし、男女が共に生きるヒントを伝えています。

今年は、様々な世代、性別、それぞれの立場からの家族とのつながりや生き方、地域を支える女性たちなどをテーマにした作品が多く、「女性の前向きに強く生きる姿に感動し学ぶことが大きく、良かった」など多くの声をいただき、人それぞれの思いや働きかた、自分らしい生き方を考えるきっかけになりました。



5月23日(土)

社会に声を届けよう！女性のための政治入門塾

今年度から始まったミニセミナーの第1弾。現職県議会議員の杉本ゆやさんと、弊センター前所長で元津市議会議員の柏木はるみさんを講師に迎え、「政治」について考えました。普段敬遠されがちなテーマですが、おふたりの経験や事例を交えわかりやすくお話いただきました。また定員10名という少人数だからこそ語り合え、政治は身近で自分たちも関わっていかなければならないということが共有できた講座になりました。

た。内容についてはホームページで詳しくレポートしています。ぜひご覧ください。



5月9日(土)～
6月20日(土)

自己主張トレーニング

フレンテみえ相談室へは、多くの女性から生きにくさや人間関係についての悩みが多く寄せられます。このような女性たちの声を受け止め、両講座を実施しました。

今年も定員の倍を大きく超える申込みがあり、抽選となりました。

自己主張トレーニングは、自分も相手も大切にしながら、自分に合った言葉で過不足ない伝え方を学ぶトレーニング。講座5日間を通して日々感じる自分の気持ちや言動を見直しながら、「自己主張」を練習。また、主張のスキルだけではなく、自己尊重感を高めることが大切という気づきを得ました。参加者からは「自分が気づいていなかった感情や思い込みに気づき前に進めよう」という声がありました。

また、自己尊重トレーニングは、周囲を優先して自分の気持ちを後回しにするよう生きてきた女性が、ありのままの自分を

6月10日(水)～
7月15日(水)

自己尊重トレーニング

受け入れ、大切にすることを。どういう時にどんな気持ちになるのかを丁寧に見つめ、とらわれていたものや潜在的欲求について考えました。参加者からは「自分の欲求を言葉にして確認し、自己を知ることができた。他の人との意見交換の中で私は一人じゃないと思えた」という声が聞かれました。



7月2日(木)、
9日(木)

子どもができたあなたへ。 育休中に描くママのこれからの働き方 ～働くママでよかったと思えるために～



子どもができて産休・育休後復帰するママが、これからの自分の働き方について考える講座を行い、約30名の方々が集まりました。

講師の高祖常子(こうそときこ)さん(NPO法人ファザーリング・ジャパン理事 マザーリングプロジェクトリーダー、育児情

報誌[miku]編集長)からは「自分の働きやすい環境でない場合、声をあげることも必要」「子育て経験は強みになる」「なぜ働くのか、自分の気持ちを明確に」「コミュニケーションでまわりの協力を勝ち取る」「一人でがんばりすぎない」など、自分と家族がHAPPYで働き続けるためのヒントを多くいただき、また育児と仕事を両立しながら働き続ける先輩ママから「いろいろな価値観の人がいて当たり前。自分の選択に自信をもって」「多くの人と関わることは子どもにとってもプラス」など、自身の経験からのアドバイスをいただきました。

全2回の講座終了時には同じ働くママ同士、とても打ち解けて話す姿が印象的でした。参加者からは「仕事復帰に対して具体的なイメージを持つことができ、希望を持てた」「先輩ママのお話は経験したからこそ説得力があった」「これからの両立のはげみになりそう」「働く女性ならではの心配事や悩みを話せた」などの声が聞かれました。

その他こんな講座を開催しました！

7月25日(土) 育キャリ☆仕事も家庭も! パパに贈る新しい働き方

8月 2日(日) M祭! 2015 みんなちがって、おもしろい。からだで作ってあそんでみよう!

8月 7日(金) 働きたいママのための再就職応援カフェ 私が働くことに迷う理由

《イベントレポートはホームページに掲載中です!》

フレンテみえ

検索



暮らしにふれる

メキシコの旅より

メキシコ滞在中の農大輔さんによるエッセイ。今回は青年海外協力隊時代のお話です。行ったこともない国の女性たちの姿が目につきました。

連載
第2回

「みんなで前に進まなきゃね」

青年海外協力隊員として、メキシコの田舎で女性グループ活動に関わっていたころのお話。生活を改善するために、自分たち自身でできる小さなことをコツコツやっていました。お菓子作りや手芸(参加者同士の教え合いっこ)や大豆ミート普及(安くして節約、コレステロールゼロで健康促進)、手洗い・うがいの普及などなど。町のお祭りの展示ブースで「みんなで学んだことを発表してみよう」ということになりました。

お祭りのメインは「夜」。中には「夫が許してくれない」というお母ちゃんも。彼女はがんばりやさんで、笑顔を絶やさないムードメーカー。お祭りの準備をしっかりやってくれたのに、参加できない。さすがの彼女もさみしそうでした。

後日、町役場から感謝状贈呈式とお昼ご飯の招

待がありました。参加できなかったお母ちゃんの家事情を知っている女性たち、「今度こそ連れて行ってあげようよ」ということに。でも、やっぱり許してくれない夫。私は夫さんにお手紙を書きました。「グループに感謝がもらえることになりました。彼女のがんばりのおかげです。ぜひ一緒に贈呈式に参加してくださいね。」

贈呈式当日、彼女はみんなと一緒に感謝状をもらうことができました。

うれしかったのは彼女たちから寄せられた「私たちが知っていることを、友達や他の人たちにも教えてあげなきゃね。みんなで前に進まなきゃね。」という言葉。

この活動を通して、何かを残すことができたらいいのですが。



お祭りの展示ブースに市長が訪問

(プロフィール)

のう だい すけ
農 大輔

1979年生まれの36歳。幼稚園から中学校まで11年間いじめを受けた経験をもつ。

大学の研究室で実験職員として勤務した後、2008年6月より青年海外協力隊員としてメキシコ・チアパス州に派遣される。女性グループの自主的な活動の促進のため、大豆ミートの普及活動やお菓子作り教室などを行う。また、2009年の新型インフルエンザを機に、手洗い・うがいの普及活動なども行う。その間、メキシコのお母ちゃんたちとてのお世話になり、「恩返し」を考えるようになる。

帰国後は会社員になるも退職。「メキシコのお母ちゃんたちの味を伝える」ことを「恩返し」と決める。主夫に転身しつつ、メキシコ料理修行を前に調理のアルバイトを初め、高等学校でも勤務。

現在、母ちゃんたちの味を学ぶために、メキシコへ長期滞在中。その様子はブログ@SUENO(<http://armadillojapones.blog136.fc2.com/>)でご覧いただけます。

平成27年度エンパワーメントスクール

女子大学生のための「働く女性に役立つコミュニケーション術」

～自分も相手も大切に。対等なコミュニケーション力を身に付けよう!～

平成27年度フレンテみえエンパワーメントスクールに、初めて女子大学生を対象とした講座が登場!

社会人になると、学生時代に培ったコミュニケーション術だけでは太刀打ちできないこともしばしば。特に働く女性は、男女平等でない対応を受けてしまったり、出産・育児などのライフイベントにより仕事を続けにくくなってしまったりすること。

職場で何か困ったことがあったとき、あなたならどう伝え、どう対応しますか? 社会で生きていくためにきっと役に立つ、自分も相手も大切にしたい実践的なコミュニケーション術を身につけましょう!

日時 9月19日(土) 10:30~17:00

場所 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」セミナー室C

対象 三重県に在学・在住または三重県で働くことを考えている女子大学生

定員 30名

料金 無料(託児料は子ども1人につき1,000円)

講師 小林 清美さん

コミュニケーショントレーナー/大学講師/キャリアカウンセラー

情報コーナー
ミニセミナー

女性のからだのプチ不調

～自分で整えるためのセルフケアレッスン～



「仕事で大切な日なのに、生理痛がしんどくて」「生理前の頭痛やイライラ、むくみが気になる」など。20~30代女性の多くが抱えていると言われる月経に関する悩み。

仕事にプライベートに忙しい毎日の中、やり過ごしている方は多いのではないのでしょうか。普段見過ごされがちで、でも気になる大切なカラダのこと見つめませんか。

女性ホルモンなど正しい体の知識を得て、呼吸法やセルフマッサージなど、日常生活で簡単にできるセルフケア方法を学びます。

日時 10月17日(土) 10:30~12:00

場所 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」情報コーナー
レクチャースペース

対象 20~30代の女性

定員 10名

料金 無料(託児料は子ども1人につき500円)

講師 大平 肇子さん

(公立大学法人三重県立看護大学母性看護学教授)

社会に根強い強かん神話

根拠もなく真実でもないにも関わらず、社会に根強い性暴力や性虐待に関する思い込み。これを「強かん神話」と言います。社会の中にあふれる「強かん神話」が人々の意識の中に刷り込まれ、その結果、被害者を苦しめる言動につながっていることが多くあるのです。

① 性暴力被害にあうのは若い女性だけ

被害者は若い女性に限らず、乳幼児から高齢者まで、すべての年代の女性が被害にあっています。また、異性間だけでなく、同性間での性暴力被害も起こっています。

② 性暴力被害は、暗い夜道であうことが多い

平成24年版犯罪白書によると、強かん被害の場所は6割以上が屋内。また、被害時間に関して、平成26年警視庁調査によると、夜に限らず日中でも多く発生していることが報告されています。

③ 被害者が本気で抵抗すれば、逃げる事が出来る。被害者が抵抗すれば、強かんされなかったはず

実際には、被害者は恐怖感から凍りついたようになってしまい、声をあげることすらできないことが多いのです。また、腕力や体格の差があると抵抗することはとても難しいものです。この神話がまかり通ってしまい、抵抗しない=合意の上とされてしまうことがあります。

④ 強かんは、女性側の挑発的な服装や行動が誘因となる

「性犯罪の被害者の被害実態と加害者の社会的背景」(警察時報No.11 2000年)によると、加害者が被害者を選んだ理由として「警察に届けることはないと思った」「おとなしそうに見えた」という理由が7割以上。仮に女性の服装が派手でも強かんをして良い理由には全くなりません。

雑誌やメディアの中には、性に関する情報が氾濫し、中には、誤ったメッセージが発信されているものもあります。こうした社会では、意識しないまま性に対する誤った見方を持ってしまおうという大きな危険が潜んでいるのです。私たち1人ひとりが、偏見や誤った情報にとらわれず、メディアを読み解く力(メディアリテラシー)を持つことが大切です。参考:内閣府「犯罪被害者等基本計画検討会」資料より

「みえ性暴力被害者支援センター よりこ」開設

性暴力の被害などに遭われた方の心身の早期の回復を図るための相談窓口として「みえ性暴力被害者支援センター よりこ」が6月1日に開設されました。女性の相談員が、電話相談、面接相談や医療機関の紹介、法律相談等必要な支援をコーディネートします。被害に遭われた方は何も悪くありません。一人で抱え込まず、まずは「よりこ」へお電話ください。

相談電話
059-253-4115
(平日 10時~16時)

ホームページはこちら▶▶▶



フレンテみえって、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

~詳しい情報はホームページまで~

フレンテみえ

検索

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

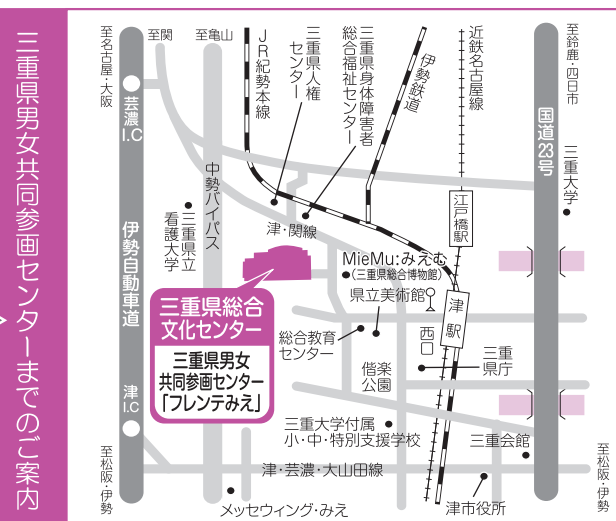
女性のための電話相談 **秘密厳守・相談無料**

フレンテみえ相談室 **専用ダイヤル 059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日※	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30		●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00		—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道菟濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。